

旭川歯科医師会だより 58

お口爽やかですか

テーマ **フッ化物洗口の経済的効果**

フッ化物洗口によるムシ歯予防 は医療費軽減につながります

フッ化物洗口がムシ歯予防に効果があり、安全なことを今まで説明させて頂きました。今回は大人になってもその効果が持続すること、そして高齢者の方でも健康な歯が残っているほど病気になるにくいことなどを説明させて頂きます。

フッ化物洗口で 17倍もムシ歯が減った

平成19年度の旭川市の小学校55校歯科検診結果によると、幼稚園や保育所でフッ化物洗口を経験した児童が50%を超えた小学校は5校あり、その5校は全小学校55校に比べ、1年生で17倍もムシ歯が少ないことが示されました。

フッ化物洗口を早くから実施 している新潟県三島町の調査

新潟県は1970年から小学校でのフッ化物洗口を開始し、現在、全都道府県の中で9年連続してムシ歯

本数が1番少ない県です。

20歳時点の1人あたりのムシ歯の数を、フッ化物洗口をしている新潟県三島町と全国とで比較しました。全国では1人平均のムシ歯本数が8本でしたが、三島町は2.2本しかありませんでした。フッ化物洗口によるムシ歯予防は、大人になってもその効果が持続することが示されました。(図①)

フッ化物洗口の長期実施で 歯科治療費は抑制されます (国民健康保険による歯科治療費)

フッ化物洗口を長期間実施した市町村は子供1人あたりの歯科治療費は低い傾向にあり、未実施市町村の約半分という結果が示されました。(図②)

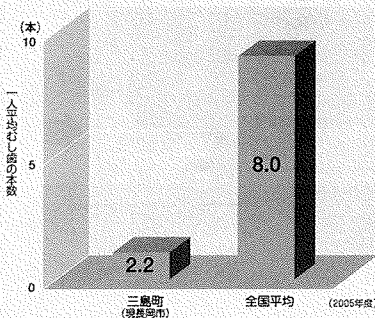
高齢者の歯の本数と 一般医療費の関連

北海道国民健康保険団体連合会が2007年5月の医療費について調査したと

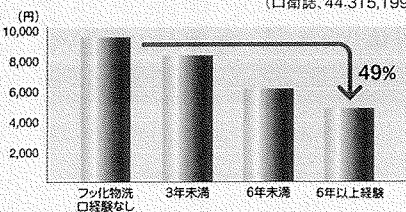
ころ、自分の歯が20本以上ある高齢者(70歳以上)は、残っている歯が4本以下の高齢者に比べて、1人あたりの医科診療費(歯科に限らない)が約2/3に抑えられているという驚くべき結果が得られました。歯が多く残っている方が、病気になるにくい傾向が示されました。

小学校等でのフッ化物洗口は、家庭環境や家庭間の健康認識格差に影響を受けない唯一の方法です。旭川歯科医師会が社会的使命感から取り組んでいる小学校等でのフッ化物洗口は、純

(図①) 20才の歯科検診では



(図②) 市町村別10~14歳児の一人あたりむし歯治療費 (口衛誌. 44:315, 1994)



粋な公衆衛生活動そのものです。この活動に対して、過去の誤った学説の一部を引用し、フッ化物洗口が有害であるかのように喧伝する行為は許されるものではありません。PTAの皆様や市民の方々からの後押しで、ムシ歯予防に1番重要な小学校でのフッ化物洗口が推進されますことを期待いたします。旭川市として上川地方の小学校でムシ歯ゼロを目指しましょう。日本一の「健口」都市にしようではありませんか。